

# NEWSLETTER 24

GLOBAL MAPPING

## アジア・太平洋地域は持続可能な開発のための地球地図の重要性を確認 宇根 寛, ISCGM 事務局

持続可能な開発のための世界サミット(WSSD) アジア・太平洋地域高官級会合は、2001年11月27日～29日まで、カンボディア王国プノンペンにおいてアジア開発銀行、ESCAP、UNDP、UNEPの共催で開催された。ESCAP加盟49ヶ国及び準加盟国の閣僚級の代表団と、国連機関や他の国際機関の代表、多数のNGOのメンバーが本会合に出席した。熱心な討議の後、南アフリカ、ヨハネスブルグで開催される持続可能な開発のための世界サミットの準備のためのキーとなる政策課題や優先事項、目標、制約、行動を述べる「アジア太平洋地域持続可能な開発に関するプノンペン地域綱領」が採択された。日本国国土地理院の宇根寛が日本国代表団の一員として本会合に参加し、本会合の目的をふまえ、地球地図の重要性について、他の参加者に熱心に説明した。その結果、地域綱領の「持続可能な開発のためのキーとなる課題及び優先事項」の一部に以下の文言が盛り込まれた。

「国家、準地域及び地域レベルで、地球観測、地理情報システム及び地球地図などのテクノロジーの活用の促進と、これらの経験と技術の移転のための協力の促進により、データと情報の

流通についての既存のメカニズムと基盤が、調整、強化される必要がある。」本文書の全文については以下のホームページを参照されたい。

[http://www.johannesburgsummit.org/html/prep\\_process/asiapacific.html](http://www.johannesburgsummit.org/html/prep_process/asiapacific.html)

WSSDに向けた準備作業は、全地球レベルの討議に移っている。第2回WSSD準備会合となる国連持続可能な開発委員会は、1月28日～2月8日まで、ニューヨークの国連本部において開催される。会期中の2月1日に、ISCGM事務局は同会場でサイド・イベントを行う予定である。イベントはミニ・セミナー形式で、ISCGMの委員数名が発表を行う。



## Africa GIS 会議 福島 芳和 国際建設技術協会

AFRICAGIS会議は、2001年11月5日～9日まで、ケニア国ナイロビのUNEP本部において開催された。本会議は、2年に一度アフリカで開催され、本年はGIS-KenyaとUNEPの共催により行われ

た。多くの発表は、アフリカにおける地理空間情報を利用した持続可能な開発に焦点があてられた。その理由の一つは、地球サミット+10が2002年にヨハネスブルグにおいて開催されるため

ある。地球地図の概要に関するペーパーが国土交通省の久保氏により作成され、国際建設技術協会の福島により発表された。ケニア測量局のムバリア氏がケニアにおける地球地図の経験を述べ、大きな注目を集めた。その他の主な話題はSDIと標準化であった。SDIのコンセプトはアフリカ諸国で普及している。全てのセッションは、UNEPのフォースマン博士の進行と友好的

なケニアの関係者の多大な協力により、スムーズかつ非常に活発に行われた。驚くべきことに、本会議には35ヶ国から400名を越す参加があった。本会議は盛会のもとにケニア測量局のニャポラ氏により閉幕された。本会議において、アフリカは現在GISの実施の中心であり、地球地図やGSDIにとり非常に重要な地域であると確信した。

### RCMRD 技術委員会会合における ISCGM の発表

ウィルバー・オティチロ博士， 地域センター所長  
ハガイ・ニャポラ， ケニア測量局局長



開発のための資源地図作成地域センター (RCMRD) 技術委員会の第35回会合は2001年12月3日～4日までケニアのナイロビで開催された。

以下のRCMRD加盟国の代表が本会合に参加した。ボツワナ、エチオピア、ナミビア、スワジランド、スーダン、タンザニア、ウガンダ、ザンビア、ケニア、E.C.A.(国連アフリカ経済委員会)。

ISCGM事務局の宇根寛氏と国土交通省の久保紀重氏が本会合に参加し、地球地図プロジェクトの進捗とヨハネスブルグで開催されるWSSDに焦点をあて発表を行った。

宇根氏は地球地図プロジェクト構想の概略を述べた。その中で、地球地図の目的、仕様、運用とアフリカ諸国の参加状況が説明された。また、プロジェクトの現状についての説明も行われ、本プロ

ジェクトには本センターに加盟する8ヶ国を含むアフリカの17ヶ国がすでに参加している。本センター加盟国は、地球地図プロジェクトを完全に支持し参加するよう勧告された。

久保氏は、持続可能な開発のための世界サミット(WSSD)の準備について発表を行った。本発表の目的は、各国がサミット参加の準備作業を行うよう、加盟国の意識を高めることであった。

2002年8月26日～9月4日まで、南アフリカ、ヨハネスブルグで開催されるWSSDに向け進行する様々な展開、会合、準備の概略が説明された。

RCMRD所長は、本センターは地域の機関として地球地図の目的の一部、ことに人材育成の目的の実施について関与する良い立場にあると述べた。

2001年12月6日～7日、ナイロビで開催されたRCMRD理事会会合の決議の1つとして、地球地図、全地球空間データ基盤(GSDI)、国際標準化機構(ISO)及び技術委員会211(TC211)などの国際的な取り組みに参加するよう、加盟国に対し勧告された。

## 2001年環境地図作成技術コース

“一般の人々が、地球地図、地理情報システム、リモートセンシングなどのツールを用いて、地球環境問題に関する情報を自由に利用できるようにするため支援環境を確立する必要がある。” アジェンダ21。



2000年以上前に、国際貿易に役立つ相対的位置を知るためのポリネシア航海図などの「地球地図」が存在した。今日、我々は人工衛星を利用するリモートセンシングや、コンピュータのハードウェアやソフトウェアで提供されるツールを備えた地理情報システムなどの技術改善の時代に生きている。

それゆえに、我々は、天然資源を管理・保全し、安全と健康を確かなものにする、持続可能な状況でビジネスや発展を促進させる、新しく、より良い地球地図主題データセットを必要とする。

それを受けて、地球地図構想は1992年に、信頼でき、かつ正確で時宜を得た主題データを整備するために発表された。国際協力事業団(JICA)や国土地理院の努力により、環境地図作成技術集団研修コースは、1999年に地球地図の作成作業の能率を高めるために、その概念の普及を目的とし開始された。

2001年10月1日～12月15日までの「地球地図-持続可能な開発のためのGISの利用」をテーマとするプログラムに、5ヶ国(ガーナ、ウガンダ、ミャンマー、ラオス、ニカラグア)の研

修員が参加した。

講義、実習、研修旅行から成る本コースは、ISO(標準化)、地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、気象などが課題となり、リモートセンシングや地理情報システム、全地球測位システム、地球地図でのインターネットの利用について新しいテクノロジーの紹介があり、研修員にとって有意義であった。

地球地図を利用した地球環境資源の管理の監視、解析、予測も、環境保全の重要性について我々が初めて理解する分野であった。

最後に、私達研修員は、JICA、国土地理院、TBIC(JICA筑波国際センター)と、歴史や文化を知るために訪れた各地で暖かく歓迎してくれたすべての親切な日本の方々に感謝の気持ちを表したい。国際的な性格を持つ集団研修コースは、実際に、調和と理解、友情、尊敬の精神で我々を結びつけ、その精神は、将来最終的に地球規模や地域における協力の促進として完結するであろう。

ガーナ測量局

シニア・カートグラファー

クリス・クウェク・ゼグブロー

## 地球地図データのアクセス状況報告

2000年11月に地球地図データが公開されてから約1年が経過した。当初は、バージョン0及びバージョン1の日本・ネパール・ラオス・スリランカ・タイが公開され、その後12月にフィリピンが、続いて2001年5月にコロンビア・6月にオーストラリア・7月にバングラデシュ及び12月にモンゴルが公開され、現在10ヶ国が公開中です。

公開当初から11月末までの地球地図データのダウンロード状況をまとめましたのでお知らせします。

まず、ユーザー登録数は、約2,700名で、

ダウンロードの件数は、

GMView	約2,600件
バージョン0	約5,400件
バージョン1	約10,800件
合計	約18,800件

となっています。バージョン1では、地球地図日本のダウンロードが約7,800件でバージョン1の約72パーセントを占めています。

今後、データ整備が進み、公開される国が増加すれば、利用件数も比例してどんどん増加するものと期待します。

## 地球地図の参加状況

### 地球地図の参加状況

2001年12月25日現在

地球地図の参加国・地域数

89ヶ国・地域

地球地図への参加を検討している国・地域数

32ヶ国・地域

### 地球地図への最近の参加国

コンゴ共和国地理調査地図作成センター

10月9日参加

ラトビア共和国ステート・ランド・サービス

12月5日参加

ウガンダ土地測量局

12月18日参加

## 地球地図データの公開

### 公開されたデータ

モンゴル、12月4日

## 地球地図及び関連の会合予定

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

### 2002年

1月28日～2月8日、米国、ニューヨーク  
CSD10第2回準備委員会

2月12日～15日、日本、東京  
第13回 CEOS/WGISS

3月、米国、ニューヨーク  
CSD10第3回準備委員会

4月19日～26日、米国、ワシントン  
第XII回 FIG会議及び第XV回総会

5月23日～24日、タイ、バンコック  
第14回 ISO/TC211 本会議

5月、インドネシア  
CSD10第4回準備委員会

8月26日～9月6日、ドイツ、ベルリン  
第8回国連地名標準化会議

8月26日～9月4日、  
南アフリカ、ヨハネスブルグ  
持続可能な開発のための世界サミット

9月、ハンガリー、ブダペスト  
第6回 GSDI 会議

9月20日、ハンガリー、ブダペスト  
第9回 ISCGM 会合

編集、発行：国土地理院

地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番

Tel: 0298-64-6910 Fax: 0298-64-6923

E-mail: sec@iscgm.org

http://www.iscgm.org/